

令和7年度 厚生文教委員会 委員派遣報告書

委 員 会 名	厚生文教委員会
議 員 名	中迫 勇三、岡田 直己 角広 寛、杉谷 辰次、萩 由美子、 岡 富雄、岡本 純祥、寺田 元子
議員派遣先名	議事堂 委員会室

派遣費用

科 目	支出額	摘 要
	-	
合 計		0 円

1 三原市での課題と派遣の目的（本市の現状と課題を明確に）

本市においては、高齢者などの移動支援についての課題が山積しており、厚生文教委員会として、より深い研究を進めるため、政策提言のテーマを「移動支援について」とし、課題を整理してく中、意見聴取の一つとして、本市で社会参加と生活を支える仕組みの充実に向けて取り組んでいる、生活支援コーディネーター（社会福祉協議会に配置）との意見交換会を実施することとなった。

2 実施概要

実 施 日 時	派遣先	議事堂 委員会室
令和7年12月4日 13:30~15:00	担当部局	社会福祉協議会地域福祉課 （生活支援コーディネーター）

1. 三原市生活支援体制整備事業における移動課題の状況について

(1) 生活支援コーディネーターの役割

- ・市から介護保険制度の領域で生活支援体制整備事業を受託している。
 その中で、小学校区や中学校区ごとに地域生活課題を洗い出し、対策を考える地域福祉ネットワーク会議というものの実施しており、主に住民による生活支援体制、介護予防、社会参加といった生活課題への支え合いの協議を続けている。

(2) これまで協議された「移動」課題

- ・身体や認知機能が低下をすることで、自家用車が運転できなくなり、外出や通院が困難となる人が現実として増えている。
- ・移動そのものよりも外出の機会が減ることによるフレイル（虚弱）が進んだり、要介護の状態になることが心配されている。
- ・目的地までの移動ができない要因が運転だけではなく、外出前後の準備や片付け、地域コミュニティ交通やタクシーの予約ができないといったことも含めて難しさが出ている。
- ・地域内（区内）の移動も難しいという声が最近増えている。
 具体的には、路線バスではバス停までの移動ができない、地域コミュニティ交通では大きい荷物を持つての乗り降りができないなど。
- ・タクシーについては、外出前後の支援が叶わないというところが意見として出ている。
- ・住民同士で送迎支援については、事故の負担感が強く、協力しづらいという声や家族が賛成しづらいといった声もある。

(3) 課題解決に向けた地域福祉ネットワーク会議での意見や取組

ア 介護施設による地域貢献

- ・車両が空いてる時間に常設サロンの送迎支援を実施されているケースがある。

イ 地域住民による送迎支援

- ・住民同士の支え合いには事故などによる負担感があるといった意見があった。

ウ 地域コミュニティ交通

- ・高齢者の移動支援には、運転の代行だけでなく、外出前の準備や買い物後の荷物の整理で車両乗降の改善や予約の手伝いなど、多くの行程に支援が望まれている。また、行先についても買い物や病院といった最低限の目的地だけではなくて、校区外や余暇活動の場所などへの社会参加も含めた多様な目的地を希望する意見が多く、バスやタクシーなどの公共交通の利便

性だけでなく、専門的サービスやボランティアニューサポートも含めた移動の選択肢が広がる地域づくりが望まれている。

2. 意見交換～高齢者の求める移動支援について

◎聴取内容

○地域福祉ネットワーク会議について

- ・介護保険事業の中に位置づいている協議の場という位置づけである。会議の参加者は住民自治組織、民生委員、地域ボランティアの方に加え、専門機関として包括支援センター、校区内にある介護施設、病院などの医療福祉分野における専門機関の方である。
- ・現在起きている困りごとについての話し合いをする場であり、移動支援に関しては地域負担が大きく、できることが少ないため、応援をしていただきたいという議論は昨年度から続いている。
- ・まずは身近にいる杖を使用しないと移動できない方などについて、どう支援しようかといったところからスタートしていることもあり、地域福祉ネットワーク会議においてタクシー助成を望む意見は極めて少数であり、ニーズを把握はできていない。

○地域における移動支援について

- ・社会福祉協議会の働きかけによる移動支援導入地区は、令和7年12月4日現在、3地区で稼働しており、今後2地区で稼働予定である。
- ・稼働している3地区において自己負担はなし。（無料では利用者が利用しにくいとの意見もあるが、料金設定が難しい）
- ・移動支援にかかる車両の台数と運転手としての登録者数は、旭町・古浜1台2名、宮浦3丁目2台2名、本郷北方：2台10名、大和町上徳倉：2台6名（沼田東は申請しているが稼働はまだ）
- ・福祉事業所による移動支援における送迎車両は車椅子対応ではなかったと認識しているが、現在、協力いただいている事業者は車両と運転手がセットで対応いただいている。
- ・移動支援に関する実費の部分については、介護保険で補助されており、運転をされる方の人件費については、法的には補助できないが、ボランティア報奨費というかたちで出せるようにしている。
- ・介護の必要な方や要支援の方を送迎する専門の運転手がついて、買い物への支援に繋がれば利用者が安心できると考えているがどうか。（現状や課題）
 - ⇒ 買い物のニーズはあり、協議を続けており、ニーズがあれば、選択肢として検討の余地はある。現状は何とかなっているので拙速には舵は切っていない状況である。サロンまでの送迎支援よりもサロン参加者の買い物や通院の支援ということで申請している地域もある。

	<p>○平成 30 実施の久井町におけるアンケート調査について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に困っているだろうという方に調査をしたものであり、現在（平成 30 年当時）ある公共交通では町外に出ないといった意見があった。 <p>○ご近所おたがいさま活動（ほっとは一と）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同募金を原資として、困っている人からの依頼を受け付けて、登録されているボランティアの方がお手伝いをするといった有償のボランティア活動である。 ・利用は 1 時間 300 円（活動された方には社協が 300 円を上乗せして 1 時間当たり 600 円）であり、依頼件数は、年間 800 件程度である。 ・依頼内容としては、話を聞く、掃除、草取りなど。また、移動や買い物支援の依頼を受けることはあるが、移送（送迎）はできないため、現地に来た方の買い物や通院などの支援をしている。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のリーダーの育成や潜在的なニーズをどう拾うのかについては、社協としても危機感・課題認識を持っている。 ・三原市においては、地域が現在している送迎支援に沿うような内容で制度設計されていると認識している。
<p>市政に活かせること（まとめ）</p>	<p>生活支援コーディネーターの方々と意見交換を行う中で、改めて課題の大きさを痛感するとともに、移動支援の必要性についても確認できた。</p> <p>また、高齢者の移動支援には、運転の代行だけでなく、外出前の準備や買い物後の荷物の整理、車両乗降の改善や予約の手伝いなど、多くの行程に支援が望まれている。加えて、行き先についても買い物や病院といった最低限の目的地だけでなく、校区外や余暇活動の場所などへの社会参加も含めた多様な目的地を希望する意見が多く、バスやタクシーなどの公共交通の利便性だけでなく、専門的サービスやボランティアニューサポートも含めた移動の選択肢が広がる地域づくりが望まれていることを理解した。</p> <p>今回いただいた貴重なご意見を、今後の政策提言に向けて活かしていく所存である。</p>